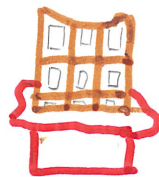


編集者 日下部 さんの

仕事のかりがい



チョコ

日下部さんの、仕事のかりがいを紹介します。

まず、重版になることが、たくさん売れたということ、

とてもかりがいたそうです。書店・編集者・作家みんな嬉しい

そうです。また、読者から手紙が届いて、編集者の私にかいる

から本ができて読者に喜んでもらったと分かることもかりがい

になるそうです。もし本を読んでとてもいい本だなあと思ったら、

本に関わった人に手紙を出してみてください！



やっぱり、**仕事**が

たのしい!

日下部さんは、本の出版の仕事の気分転換に、旅行に行ったり、小さな本屋さんをめぐったりするそうです。でも、結局本屋さんで本を見ても、旅先で人と話しても、仕事に結びついてしまうそうです。

また、「この仕事は、気分転換は必要ないかも」とも言っていました。それだけ、その仕事が楽しいんですね。

編集者の人達は

たくさんの事を心にかけていた！！



ゆづき

日下部さんは、編集者の仕事をするなかで、4つの事を心かけていました。

1つ目は、作家の人にはそく答することです。

2つ目は、その年にあった漢字などを使うことです。

3つ目は、言葉をまちかえないようにすることです。

4つ目は小さい子がおこがいかいでも買えるようにすることです。

このように、日下部さんは、特に小さい子に心かけながら本をつくっているそうです。



～大人用の本よりも

子ども用の方を「作る方が」

難しいらしい～

今回、目下部さんから話を聞いた中で、「大人が読む本よりも子どもが読む本の方が難しい」という言葉に驚きました!! 確かに「大人が読む本は年齢関係なく楽しく読めますが、子どもが読む本は、本の


裏に「00歳以上から」ということが書いてあり、漢字もその対象年齢に合わせた漢字や言葉で書かれているのだから作る側もとても苦労しているのを見ました。



mizuki

海外で

日本の本が

 約1400万部売れている!

海外(中国^{など})では、日本で作られた戦争
に関する本が約1400万部売れた。

戦争に関する本だと、ほどぎわの「トットちゃん」
という本がある。また日本から海外に行く人が
ふえている。

1冊の本を



✿ SUMIRE ✿

作るのに2年もか
かる!!

1冊の本を作るにはきかくインタビューなどで2年もかかるんです。3年生向けの本を作るには、それより上の学年のかんじによみがなを昔は全て手作業でしてました。何でも何年生のかんじかを分かるようにするためのきかいができて便利におたすろうです。



国語が苦手でも、

出版社ではたりける!

本を作った人にこの主人公はどんな気持ちか?と聞いても、まあどうな
んだらう?みたいに感じる人もいる。理系の人が少ないから、来てくれたら
うれしいらしい。ただ、文章をかきことが多く、文を書くのになれておくと
いい。(記事・本紹介など)歯医者をやめて来た人もいるらしいから、こ
う自由なイメージ。いろんな本があるから、いろんな女子まな物について本を作
れる。バラバラで問題は無いらしい。



出版社の仕事 やってみたい そこのあなたへ

日あがりんこ

出版社は、主に、本のまかくをしたり、
 シケインを考えたり、最後にバーコードのチェック
 など、いろいろなお仕事が前たおしに行われます。
 人を集めたりするのが好きな人、本が好きな人に
 くいしている しゃくまうです。興味味があたら
 せびや、こみてきたい!! ちるん国語がにかびな人でてま

※出版社時間りる時間は自由です



ゆずか

編集者の お仕事は 大変!

～講談社の編集者さんにインタビュー～

6月18日、講談社の編集者(児童書の)にいらっしゃる日下部 由佳さんにインタビューをした。

話してもらったことは主に、編集社出版社のことだった。

おどろいたことは、本が好きでなかったり、国語が得意でなくても編集社になれることだ。

あと、児童書を担当していても小学生向けなどの本もつくれることだ。

とても出版社は色々な人が集まるので、みなさんも興味があたら

調べてみてほしい。



児童書は **本**

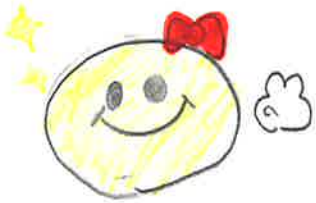


20年もつづけている!



HONOTI

児童書は約20年もつづいて、たくさんの本(赤毛のアム)や(100万回
いきたねこ)などをつづけていることが分かりました。00部などが
たくさんあり、おびを作ったりするのがたのしいそうです。



めいさ



本が"できるまで"
約1年はかかっています!?



何年かかっているのたろ

本を作るには約1年はかかります。

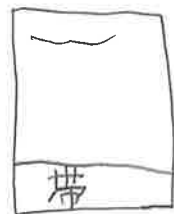
自分たちは何日で本をよめますか

作っている人たちでは何年どの月日をかけてたかさんの本を作っています。

↑
こころを心がけてこれからよむ本の考えてみてはどうでしょう。



帯作りが好き



日下部由佳さんは、編集者として心がけていることは、作家の方が書いた文章をすぐ読み、すぐ返事をしているそうです。さらに編集者は、帯を作ることができるので、由佳さんは、帯を作るのは、好きになっているそうです。



HARUKA

海外とも

やりとりをしている

海外ともやりとりをしているということにおどろきました。かん国やタイにもあたりまえに、日本語ばんの本がならんでいいことにおどろきました。



自分はしたい質問は、積極的に質問しています。
たしかに今の昔では一人おりの読書は変わっています。
自分も、そのチャンスを使って将来がんばりたいです。
また、知らない単語も、それを教えたおかげで、知識も、広がりました。今日は本当にありがとうございました。